

もう、悩まない！『石原健のHOTEL LOVERS』

～市内7ホテルと川崎市や観光協会の担当者を含めた定例会を月1回開催～ 川崎を観光の重要拠点として ホテルマーケットを拡大させたい

工業都市から産業都市に向けて変化し続けている神奈川県川崎市。品川・横浜まで JR 東海道線でひと駅、羽田空港まで 20 分、ビジネスおよび観光の拠点まで近い距離にある。街として未来的な可能性を秘めている中、川崎駅より徒歩 2 分の位置に 2020 年 5 月、“出会いと物語が始まる場所”として誕生したのがホテルメトロポリタン川崎だ。“川崎を重要な観光拠点としてホテルマーケットを拡大させたい”という思いを抱き、オープニングスタッフとしてかがやく石村康高マネージャーにお聞きした。



日本ホテル(株)
ホテルメトロポリタン川崎
営業マネージャー
石村 康高 氏

〒212-0014 神奈川県川崎市幸区大宮町 1-5
URL : <https://kawasaki.metropolitan.jp>

JTB/ハワイの現地スタッフとして1年間従事

石原 石村マネージャーとの出会いは、私がヨコハマ グランド インターコンチネンタル ホテル時代に市内のホテルメンバーが集まり、横浜のホテルとして東京に負けない営業活性化を図ろうと結成した HSN (ホテル・セールス・ネットワーク) 会のごときでした。以来、おつきあいをしておりま

すが、はじめにホテル業界を選ばれた経緯をお聞かせください。

石村 ハワイでの大学時代と卒業後に、現地の旅行会社で日本人対応の係員として働いていたときに、ホテルの仕事に魅力を感じたことがきっかけです。私が高校 3 年生のときに父が仕事の関係でマウイのホテル立ち上げにかかわり、家族会議の結果、家族全員でハワイに行くことを決めたのです。英語は苦手でしたが、思い切ってハワイの大学で学ぼうと決めました。そこで私は語学学校が設定されているハワイパシフィック大学のマネジメント学部に進学し、はじめの 2 年間は英語を学び、合計で卒業までは 6 年かかりましたが、在学中と卒業後も 1 年間、JTB ハワイの現地スタッフとして従事したのです。そのとき、ヒルトンやハイアット、シェラトンなど、ハワイのホテルとの出会いにより、ホテル業界への魅力を感じたのです。

石原 なぜ、そのままハワイで就職をされなかったのですか。

石村 ハワイはとても素晴らしいところでしたが、まだ 20 代半ば、異国の島で一生過ごすことはもったいないと思ったのです。日本に戻り、出身地の京都はじめ関西でなく、大きな市場を背景にした関東のホテルで働きたいと考えていました。就職先を探しているときに、ちょうど、横浜ベイシェラトンホテル&タワーズでオープニングスタッフを募集していたため、応募。採用されることになり、1997 年より 2004

年までエージェントセールスやブライダル、宴会予約に従事いたしました。

オール横浜で誘客に取り組んでいたHSN会

石原 HSN 会に参加していた横浜ベイシェラトンホテル&タワーズのメンバーは、キャラクターが濃い方が多かったので、その中ではおとなしい印象がありましたね。

石村 石原社長はそつなく、誰でも分け隔てなく接していただき、ホテルマンとして素晴らしいと感じていました。東京に隣接するエリアとして何としてでも横浜エリアの宴会やブライダル事業を盛り上げていこうと一致団結していましたね。東京エリアの施設も結婚式の候補として見学されているカップルにおいては、ほかの HSN 会のホテルも紹介して、何としてでも横浜として獲得したいという熱意と意識で挑んでいました。

石原 一般宴会においても、定期的に会場を変えるお客さまに対しては、自社のみの顧客にしようというセールスを行なうのではなく、業界全体でより良くしていこうと、前回開催したホテルの情報を聞き、それよりもさらに内容充実を図るなどの連携を繰り返していましたね。オール横浜で取り組んでいたことが、より良いものをお客さまに提供することに繋がったと思っています。

その後、グランドハイアット東京に転職されましたが、横浜では近隣のホテルに転職することにオープンでしたが、なぜ、東京の外資系ホテルを選択されたのですか。



石村 横浜のホテルとは異なるマーケットを持つホテルで仕事をしてみたい、覗いてみたい、勝負してみたいという思いでグランドハイアット東京に転職し、宴会セールスや予約を担当いたしました。横浜は全体的に日本人のお客さまが中心となりますが、視野は世界に広がり、実際、お客さまの 50%は外国人であり、VIP も数多くいらっしゃいました。ハワイの大学で苦勞して習得した語学力も生かすことができましたが、横浜のときのように地元で根差したホテルで働いてみたい、地域振興に貢献できるホテルで新たな挑戦をしてみたいと思い、2019 年、現在のホテルメトロポリタン川崎のオープニングスタッフに挑戦したのです。

川崎を学ぶために「かわさき検定」取得

石原 川崎は品川、横浜から JR 線でひと駅という立地であり、大手企業の工場地帯として繁栄してきましたが、宿泊という点ではホテルの軒数が少ないエリアです。

石村 私自身、通勤では川崎を通過していましたが、川崎そのものについてはいったいどのような場所なのか、理解していませんでした。実際、川崎という地名は工場地帯の弊害による公害被害などから認知されている方は多くいらっしゃるのですが、では場所は？という、まさに東

京と横浜の中間にあり羽田空港まで電車で 20 分の距離なのに認識が低いのが現状です。ビジネス客は多くいらっしゃるのですが、利便性が高いことから東京の品川や横浜のホテルに宿泊される方が多く、ホテルの数も少なかったのです。しかしながら、川崎の歴史を探ると奥深いものがあり、知るほどにまだまだ知られていないことが多くある魅力の宝庫です。市の観光担当者からの助言もあり、私自身、川崎のことをもっと知ろうと思い、2020 年「かわさき検定 (川崎産業観光検定)」を取得しましたことから、さらなる奥深さを実感したのです。

石原 それは素晴らしいことです。セールス担当として街を知る、人を知ることとはとても大切なことであり、地元で根差した開拓活動の一步ですね。

石村 川崎市内のホテルと連携し、現在 7 ホテルと川崎市や観光協会の担当者を含めた定例会を月 1 回開催しています。官民一体となり川崎市の観光振興を高め、教育を兼ねた修学旅行の誘致など、川崎に呼び込む活動を積極的に進めていく計画です。近隣には 400 ~ 500 の法人があり、個人的にもセールス担当として行政の協力も得て訪問しました。グループホテルにおいては同じく宿泊特化型のメッツも隣接していますので、ご利用目的によりお客さまが選択できるとともに、相互にお客さまを紹介することで相乗効果を高めています。

(株)ホスピタリティデザイン 横浜 代表取締役 石原 健氏



URL : <https://www.hospdy.com/>

〈プロフィール〉桜美林大学経済学部卒業/日本ホテルスクール卒業/ホテル産業経営塾卒業(第一期生)。ホテル センチュリー ハイアット (現ハイアットリージェンシー東京) で 4 年のキャリアを積み、1989 (平成元) 年、ヨコハマ グランド インターコンチネンタル ホテルの開業準備室に、第 1 期生として入社。開業後は主にセールスとして活動。39 歳で販売担当部長となり、宿泊、宴会、婚礼、レストラン、イベント等の全ての販売を行なう。国内外からの VIP に対するおもてなしを行ない、4 度にわたる皇室接遇担当の榮譽も授かる。また横浜青年会議所 (JCI) のメンバーとしても活動し、2004 年には 100% 出席賞を受賞。東日本大震災後、ウェスティンホテル仙台へ赴任、セールス&マーケティング部長として、総支配人の不在時には代行も務め、3 年 2 カ月間復興支援の一端を担う。2014 (平成 26) 年、(株)ホスピタリティデザイン 横浜を設立、代表取締役に就任、現在に至る。厚生労働省 事業検討会委員、ホスピタリティ教育研究会 会長、HSN (ホテルセールスネットワーク) 会顧問、産業能率大学講師など、宿泊・サービス業界団体や学校、企業などで活躍中。

セールスはとことろ変われば 1 からスタート

石原 営業マネージャーという呼称ですが、総支配人のもと部門責任者としてセールスすべてを一任されていますので、やりがいのある仕事ですね。メトロポリタンというホテルブランドはもちろんのことですが、今後は石村康高という個人のブランド力のアップにも挑んでほしいです。

石村 ありがとうございます。ホテル業界に入り、今日までセールスを軸に経験してきましたが、セールスは場所が変われば 1 からスタートですからとてもやりがいを感じます。地域が変われば歴史や風土、人も異なります。その中で地域を学び、地元のさまざまな方と出会い、新たなマーケットづくりをしていくこと。これは観光やビジネスで欠かせないホテルだからこそ、できることだと思います。グランドハイアット東京のときも六本木 DMO にも参画していました。

石原 川崎にはまだまだ未開拓な部分もありますが、Jリーグ川崎フロンターレの活躍など、飛躍する可能性もいろいろと秘めていますね。最後にひと言お願いいたします。

石村 今は行政と民間が 1 つになり、川崎を観光の重要拠点として、ホテルマーケットも拡大させていきたいと強く思っております。

石原 これまで培ったセールス力とエリアとの協調などにより実現させていかれることを期待しております。